No.151 2023.7
（株）よかネット

NETWORK
大隅半島で、地域と共に観光誘客・物産販売に取り組む …… 2
鹿児島城御楼門の復元の経緯等を知る …… 3
見・聞・食
さかさま不動産香春支局
開局イベントに参加 …… 5
近況
コロナがもたらしたアジアの失業状況 …… 7
車だけでなく船・鉄道で巡る旅は楽しい …… 8
「辺塚（へつか）だいだい」から
地理的表示保護制度（GI）を学びました …… 9
BOOKS
『成長から成熟へ～日本的文化資本の創造～』 …… 11
表紙解説 …… 11

●福岡市の夜の風物詩「屋台」を通じて、福岡市の夜間経済の魅力を世界へ発信

福岡市の夜の風物詩といえば屋台。2022 年 10 月の日本国内への入国者総数上限撤廃以降、市内では屋台を訪れるインバウンドの姿が多く見られます。下の図は、グーグルマップ上で 2022 年 10 月～2023 年 6 月 30 日までに外国語での口コミが 3 件以上あった屋台のプロット図（期間中の外国語での投稿件数計 317 件）です。渡辺通り沿いや、春吉橋周辺の屋台への口コミが多いことが見て取れます。

また、表は、評価点が 5 点（満点）の投稿について、投稿の内容により評価の要因を分類したものです。高評価の要因として、「料理」はもちろんのこと、「スタッフとのコミュニケーション」が重要のようです。

外国語での口コミ件数が多く、平均評価点が 5 点満点の屋台への投稿内容を見ると、「英語のメニューが準備されていた」「スタッフが英語を話すことができた」「外国人の好みにあったバー形式」などが高評価のポイントのようです（詳細は表紙解説 11 頁を参照）。

7 月 14 日に世界水泳福岡大会が開幕しましたが、こうした高評価の屋台を通じて、福岡市のナイト

グーグルマップにおける外国語の口コミが 3 件以上の屋台プロット図

ラベル	投稿数	%
	201	100.0%
食事が良かった	163	81.1%
スタッフのもてなし・対応が良かった	108	53.7%
福岡市ならではの文化を体験できた	38	18.9%
価格が割安だった	14	7.0%
メニューが多言語に対応していた	10	5.0%
スタッフが英語を話すことができた	6	3.0%
価格が適正だった	3	1.5%
清潔だった	3	1.5%
建築物・施設のデザインに魅力を感じた	2	1.0%
アクセスが良い	1	0.5%

評価点が 5 点満点の投稿における高評価の要因

大隅半島で、地域と共に観光誘客・物産販売に取り組む

原　啓介

●人口減少・高齢化が進む南大隅町における持続可能な観光まちづくり

私の同期の雪丸さんが当社から独立し、故郷の南大隅町に自身の会社を立ち上げてから早くも12年が経過した。南大隅町は、本土最南端に位置し、鹿児島市から車・フェリーで150～200分を要する。霧島・錦江湾国立公園の一部として、亜熱帯植物が生い茂り、佐多岬や雄川の滝といった風光明媚な観光資源や、新鮮な海の幸やトロピカルフルーツといった豊かな食材がある。人口動態を見ると、急速に少子高齢化が進展しており、国勢調査で見ると2020年の人口は6,481人で、ピーク時の1950年から約3割に落ち込んでいる。また、高齢化率は49.3%と鹿児島県内で最も高い。

人口減少の影響で、農地・山林・海岸などの景観保全や古民家等のストックの活用が困難な状況が出てきている中、「地域住民と、環境保全や地域貢献意識の高い観光客との共創」により、本土最南端の暮らしや本来の自然を維持するとともに、「地域の社会問題の解決、持続可能な観光地まちづくり」を行う体制を構築することを目的に、昨年度、観光庁の「サステナブルな観光コンテンツ強化モデル事業」に採択された。

雪丸さんは、南大隅町で株式会社遊喜（ゆき）という会社を立ち上げ、自治体・企業向けのコンサルティングを行っており、上記業務において観光商品開発のワークショップや、モニターツアー催行を担当された。なお私は、観光客向けアンケート調査のシステム設計、調査分析等を担当した。

本事業では、廃校をリノベーションした工場で地元の規格外フルーツ等の天然由来成分100%のスキンケア商品を製造する「ボタニカルファクトリー」での化粧品づくりワークショップや、ウミガメが産卵する美しいビーチの維持保全に取り組んだ。

その結果として、環境負荷の低減や、地域貢献への関心が高い層を見据えた観光商品をリストアップし、商品化している。

参照：本土最南端のサステナブルライフ
https://satamisaki.com/sustainable

●2020年5月誕生のクラフトブルワリー“LET IT BEER”

雪丸さんは、こうしたコンサルティング業務のほかに、父親から受け継いだ鉄工所の経営、自宅近隣農地での米作り、地区公民館（6自治会）の館長、南大隅町の移住定住促進に向けた関係人口拡大プロジェクトの中核的組織である2030みらい会議の座長、消防団活動、クラフトビールの製造、ビールバーの経営など、いくつもの仕事・役割を掛け持ち、地域のリーダーとしてまちづくりを牽引している。今回、事務所の研修旅行として、こうした雪丸さんの様々な地域づくり活動を学んだ。そのなかで、クラフトビール事業についてご紹介したい。

雪丸さんは、2014年に友人たち3名で鹿屋市にLET IT BEER（レットイットビール）合同会社を立ち上げ、2015年に鹿屋市の中心市街地の空き事務所をDIYで改造し、「wahck a mole（ワッカモール）」というクラフトビールをメインに取り扱うバーをオープンした。当初は仕入れたビールを提供するスタイルで、地元の方々の嗜好を把握しながらビールづくりの準備をし、石見銀山付近にある石見麦酒で100リットルの鍋で製造する低コストのビール製法を学び、2020年5月に国税庁の酒類製造免許を取得し、2020年10月に初めてのクラフトビールを製造した。

こうした雪丸さんたちの活動に対し、地元地区のまちづくり団体である「かのや中央四心会」から「若い世代を地域で応援したい」と声掛けがあり、定住促進に関する総務省の補助事業を活用し、約1,000万円をかけて4基の発酵タンクや瓶詰め機を整備し、クラフトビールのブルワリーとして本格稼働した。

なお、ビール醸造に関する機材は、世界各地から取り寄せ、自分たちで組み上げたそうだ。また、

ピカピカに磨かれたビール醸造器具

７種類のラインナップを紹介する雪丸さん

機械の基本的なメンテナンスも自分たちでしているそうで、店舗の内装も自ら手掛けたとのこと。こうしたDIY事業は自分には真似出来ないことであり、「すごいなぁ」と何回も唸ってしまった。

●地域と連携したクラフトビール「金柑ヱキル」

現在､店舗の名称を冠した｢ワッカエール｣など、7種類のビールを製造されている。醸造所の見学後、店舗で飲み比べをさせてもらったが、個性が異なる様々なビールはどれも美味しく、豊かな香りと適度な苦味のあるロックンロールIPAが一番好みだった。また､地元の特産の柑橘を使ったビールは爽やかな香りを楽しめた。当社メンバーと雪丸さんとの久々の再会の嬉しさもあり、いつもより早く酔ってしまった。

その中で、地域づくりとクラフトビールづくりが連携した「金柑ヱキル」(エール）というユニークな商品がある。これは、地元の特産品開発プロジェクトとして、店舗の近くの「しのぶ公園」に植えられている金柑（この公園の土地には昔は産婦人科があって、その病院のしのぶ先生が跡地を市へ寄付。公園として整備する際に、しのぶ先生

雪丸さんは、地域の方々と一緒に校区の廃校の利活用プロジェクトを推進中

が好きだった金柑を植えたというストーリー）に由来する商品で、地元の方々と試飲会を行いレシピを決めていった。地域の方がデザインしたラベルを、地域の高齢者の方々が手作業で瓶に貼っているそうだ。ラベルを1本貼るごとに30円が｢かのや中央四心会」に支払われる仕組みで、地域の自主財源確保の一助となっている。

観光振興・特産品開発、いずれの活動においても、周辺地域との連携を重視し、共に価値を創出していく活動に、雪丸さんらしい思いを感じる。今年から鹿児島市内の百貨店山形屋や新宿伊勢丹で販売が開始されるとのこと。本土最南端、大隅半島の小規模クラフトブルワリーで作られた美味しいビールを是非多くの方に味わっていただければと思う。　　（はら　けいすけ）

鹿児島城御楼門の復元の経緯等を知る

山田　龍雄

研修旅行1日目（6/24日）の午前中は令和2年(2020年)3月に完成した鹿児島（鶴丸）城の表門である「御楼門」を視察することとなりました。

私の大学時代の先輩である揚村さん（鹿児島県立短期大学名誉教授）が、御楼門復元のための調査監修等に係わっていたと聞いていたので、揚村さんに説明をお願いしました。説明は1時間程度の予定でしたが、黎明館の学芸員である西野氏も同席され、説明は御楼門だけでは済まず、石垣の積み方の種類、城郭の排水口の位置、西南戦争のときの鉄砲・大砲の痕跡、西郷隆盛の最期のことなど話は広がり､説明は2時間近くを要しました。

説明を受けた話のなかで、主に御楼門復元の経緯について報告します。

●（公益社団法人）鹿児島県建築士会から相談を受け、復元設計を作成

最初の復元の発端は、平成 18 年（2006 年）に鹿児島県建築士会まちづくり委員会が中心となって実施した御楼門復元の調査・復元設計の研究からでした。その時にまちづくり委員会のメンバーが、揚村さんのところに相談に伺ったところ、歴史的建造物復元の難しさを経験している揚村さんは専門家としての責任もあり、一旦、調査・復元設計の協力を断ったそうです。しかし、揚村さんは①鹿児島城の写真が 4 枚残っており、現在の技術で写真から正確に外観の測量が可能であること、②礎石が残っており、これから十分柱の大きさ等が類推できること、③他のお城の城門等の事例等（揚村さんは、全国の城門を巡り、調査を実施）から復元設計が可能ではないかと思い、協力を決断されました。

その後、揚村さんは建築士会まちづくり委員会のメンバーと一緒に月一のペースで会議を行い、平成 24 年（2012 年）3 月に「鹿児島（鶴丸）城跡「御楼門」復元調査研究調査報告書（以下、「復元調査報告書」という。）」として完成させ、発行しています。なんと 6 年の月日をかけた労作です。この間、まちづくり委員会のメンバーと佐賀城鯱ノ門や熊本城南大門などの視察を重ね、復元の根拠資料を作成されています。

ちなみに御楼門は、これまで白蟻による被害や火災により解体や焼失を 4 回繰り返してきました。最後は明治 6 年（1873 年）年の火災で焼失したそうです。したがって、今回の復元は 147 年ぶりとのこと。

●産官学が一体となっての復元化

この復元調査報告書が鹿児島県経済同友会の目にとまり、御楼門復元化への動きは加速していきます。その後の動きは下記のとおりです。

・平成 25 年（2013 年）：「御楼門復元に向けた方向性の提言」を県に提出
・同年 9 月：「御楼門復元検討委員会」の設置
・平成 26 年（2014 年）4 月：御楼門寄付金基金条例の施行

御楼門の前にて揚村先生による熱心な説明を聞く社員の面々

日本一大きな城門（高さ 20 m、横幅 20m）

・平成 27 年（2015 年）「鶴丸城御楼門建設協議会」発足

その後、多くの企業、個人から募金が集まり、同年 7 月には 3 ケ月と短い期間で 4 億 5 千万円を超え、県と市からも 3 億円が拠出され、最終的には基金で 10 億 5 千万円が集まり、資金面では復元の目途がつきました。建設協議会が発足してから 5 年目の令和 2 年（2020 年）3 月に御楼門は完成しました。

募金面をはじめ、産（企業、民間団体）、官（県、市、地方自治体）、学（大学、専門研究者）が力を合わせた取組みには郷土愛、鹿児島（鶴丸）城愛が感じられます。

御楼門復元は、産・学が動き、官の支援のもとで完成させた事業ともいえます。

●全国から材木を調達

復元させるためには、当時使用されていた大径木を調達しなければなりません。

材木は全国から調達されたそうですが、中でも

鬼門からの邪気を逃がすために直角にしない石積の方法

城門調査時に発見された西南戦争時の弾痕
（調査前は苔等で埋まっていて分からなかった）

感動的な話では江戸時代中期（1755 年）に幕府の命令で薩摩藩が「木曽三川（木曽川、揖斐川、長良川治水）治水工事」を行った岐阜県（美濃国）から材木が寄付されたとのこと。今でも鹿児島県と岐阜県では、この治水工事で命を落とした薩摩義士のための慰霊祭などの交流が脈々と続いています。

●江戸城の大手門より大きな城門

もともと鹿児島城の守りの城は城山であり、鹿児島城内は大名屋敷としての役割であったので、①大きな城は必要なかったこと、②鹿児島では外部から来た大名ではなく、地の大名であったことから天守閣などの外に向けての威厳を示すような大きな城は必要なかったこと、③藩のシンボルとして表門だけは威厳を保ちたかったなどの理由で、高さ 20 m、横幅 20 mの日本一の城門を作ったのではないかとのことでした。正面から見る御楼門は威風堂々としており、迫力があります。

完成から 3 年を経過した城門の壁上部の木材が黒ずんでいます。この理由を聞くと学芸員の西野さんは「桜島の灰が浸み込んでいるのですよ。」とのこと。あと数十年経過したら、壁は全体的に黒くなっているのかも知れない。鹿児島は黒豚、焼酎の黒麹など、黒のイメージがありますが、桜島の灰が作りだす黒壁も鹿児島のイメージに相応しいと感じた次第です。　　（やまだ　たつお）

さかさま不動産香春支局
開局イベントに参加

山田　龍雄

5 月の中旬ごろ、香春町で空き家コーディネーターとして活動されている手島順也氏から「さかさま不動産香春町支局」開局のお誘いがメールにて届いた。

手島氏とは、7 年ぐらい前に彼が香春町の地域おこし協力隊として空き家対策をメインに活動していた時期に知り合った。

当時、福岡県立大学の豊田先生（社会福祉学）から香春町で空き家活用の意見交換会をしたいので、サポートして欲しいというお願いがあり、香春町で空き家に興味のある人、地域おこし協力隊のメンバーなど、10 数人集まってもらい、ワークショップの企画、進行をお手伝いした。その時に手島氏とお会いし、2 年前に福岡県の空き家活用サポートセンターが設立されるときに、相談員として推薦させていただいた。

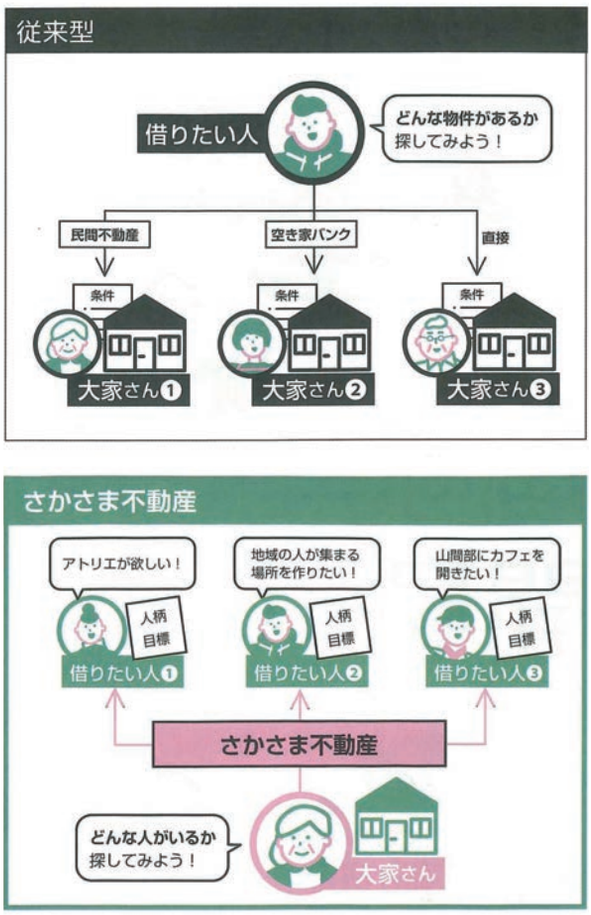
手島氏の新たなステージのイベントであること、「さかさま不動産」というネーミングに惹かれて、即参加の返信をした。

●さかさま不動産とは

開局日の 6 月 1 日（木）、会場となっている香春町中津原集学校（旧小学校を再利用した IT 交流拠点施設）へ向かった。開始時間の 20 分前に到着すると、既にスタッフを含め 20 数名の方が集まっていた。手島氏以外、誰も知っている人はおらず、少々心細くはあったが、参加するだけの気軽さ、交流できる楽しみもあり、開始時間が待ち遠しい気持ちとなった。

支局長である手島氏による香春支局開局の背景を含めた挨拶から始まり、ゲストトーク、参加者プレゼン、交流会という流れで開局式は進められ

「さかさま不動産」の仕組みイメージ



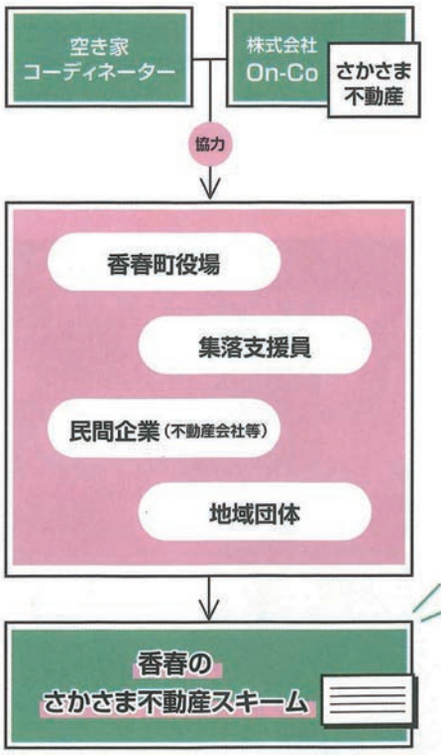
教室を改修した事務所での開局イベント

た。

ゲストトークは、さかさま不動産という仕組みを開発し、運営している㈱On-Coの水谷岳史氏が開発の経緯、背景について話をされた。

さかさま不動産とは、不動産の物件情報が並ぶ不動産事業の従来型とは逆の発想で、借り手がカフェ、駄菓子屋、ゲストハウスなど何かやりたい想いや目標を空き家や空き室を抱えている大家さんに発信し、マッチングさせる事業である。

「さかさま不動産」の仕組みイメージ



さかさま不動産を立ち上げた水谷氏

まちづくりを考えている大家さんの立場で考えると、単に空き家、空き室を埋めるのではなく、このような目標をもっている人が来てくれたら、もっと面白いまちづくりができるのではないか、賑わいのあるまちづくりができるのではないかという発想に立ち、大家さんが人を選ぶ仕組みである。

㈱On-Coは貸し手と借り手の仲介業をやっている訳ではなく、仲介料も受け取っていないという。

●さかさま不動産をはじめるきっかけ

水谷氏はこれまで数十回引越しをされ、自ら空

き家を改修して事業をされた経験があったそうだ。講演を聞いていて、このような実務の経験がないとこの発想は浮かばないのであろうと思った。

さかさま不動産の内容を説明している「さかさま不動産マガジン」に、設立きっかけの内容が記載されている。

・初めから不動産サービスを作ろうと思ったわけではない。
・名古屋駅近くで古民家を借りて自分たちで改修してシェアハウスや飲食店などをやっていた経験が原体験となっており、この活動がきっかけとなった。
・当時は、不動産サイトは使わず近所の人に「どこか空いている物件がありませんか？」と聞いて回って家を探していた。
・まちに埋もれている物件を発掘し、自分たちの手で好きなように直して暮らすプロセスがすごく楽しかった。

その後、水谷氏はある空き家に関する講演会後に登壇者と一緒に雑談しているときに「さかさま不動産」が閃いたそうである。家を探す人は、誰かがすでに挙げている物件情報を取りに行く側ばかりにいるが、これをさかさまにすることでもっと面白いことができると思ったそうだ。

この仕組みは空き家を介した関係構築を担う実証実験として2020年6月からサービスを開始しており、国交省で先進性・独自性が注目され国土交通省第1回「まちづくりアワード（実績部門）」特別賞を受賞している。

水谷氏は、この仕組みを全国に普及するため、この趣旨に賛同してくる人たちとタッグを組み、空き家解消とまちづくりを兼ねた取り組みを進めていこうとしている。「さかさま不動産」の香春支局では手島氏を中心に㈱On-Coと協力、連携しながら、香春町及び周辺地域の空き家解消、まちづくりに取組んでいくことになる。この仕組みが全国に普及していくことで空き家解消だけではなく、商店街や過疎地などの活性化につながるのではないかと思う。　　（やまだ　たつお）

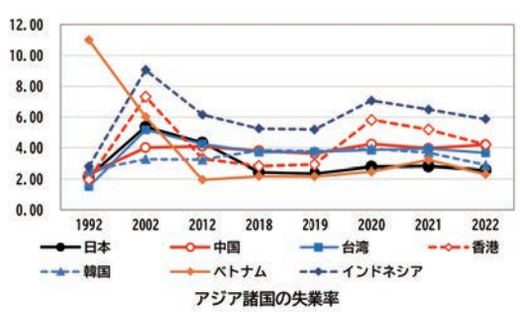
近　　況

続コロナがもたらしたアジアの失業状況

失業者とは、仕事がなくて仕事を探している人のことを一般的には言う。仕事がなくても仕事を探していない者は､失業者にはカウントされない。しかし国によってその調査方法は異なるようだ。コロナ禍において、失業状況はどうだったのであろうか。働きたくても外に出られない、仕事が無い、様々な状態があったはず。

国によって異なる調査方法ではあるが、共通の指標として『IMF - World Economic Outlook Database』により公表されている失業率をアジア諸国でみてみた。期間は、1990年代の通貨危機を経て、コロナ前の2018年から2022年まで、約30年間である。日本は、1990年代に2%の失業率だったが1997年の大型の金融破綻事件によって失業者が急増し、2002年5.4%がピークとなった。その後徐々に低下し2017年に2%台になり、2021年まで0.4ポイント上昇し、2022年は0.3ポイント下がった。

お隣の韓国は、1998年のIMF危機で7%近くまで上がったものの、2000年以後は3%台を維持している。コロナ禍では2020年4%付近まで上がり2022年には3%を下回った。最近は就職のために日本に職を探しに来る人もいると聞く。インドネシアも、アジア通貨危機後の経済改革により一時的に失業率は上がったものの、輸出や個人消費により､緩やかに回復したと言われる。その後、コロナの影響も2020年にいったん上昇するが、今はコロナ前に戻りつつある。台湾は日本とほぼ同じような動きをしているが、若者世代の失業率は高いと言われる｡海外就職を目指す若者も多く、



アジア諸国の失業率

日本にもインターンシップなどで訪れている。失業率の動きではコロナの影響はあまり見えない。ベトナムは、1992年11%の失業率から2010年頃に2%台まで下がり、2021年にコロナの影響で0.7ポイント程度上がったが、2022年の経済回復によって2%台に下がっている。しかしコロナ禍では若年層の失業率が6～7%になったとも言われている。1997年英国から中国へ返還された香港では、返還後、失業率が9%台まで一気に上昇したが、2010年代は2%台で推移していた。しかしコロナ禍で2020年は6%近くまで上昇し今は4%である。香港は『一国二制度』が50年間は保持されるということだったが、『アジアの報道の自由の灯台』とまで言われていた香港の姿は見られない。昨年のＢＢＣの記事では、香港に地域本部を置いていた国際企業は、2018～21年の3年間で10%近く減少し、中国企業の進出数は28%近く増えているという。一方、中国は、1990年代は日本同様に2%台の失業率が、WTO加盟を目指し国営企業の改革が行われたことで、2000年代初頭は失業率が4%に上昇する。その後、リーマンショック対策のための公共投資、インフラ投資により景気が支えられ4%前後であった。しかし、近年、若者の失業問題が深刻になっていると言われている。2022年7月16～24歳の都市調査失業率（都市に居住する人を対象に調査）が20%に達したという。コロナによる都市封鎖、活動封鎖、景気後退の影響が大きいとは言われているが、まだ蓄えも少ない若い人が働かなければ、貧困に陥ることは容易に想像される。

日本のパラサイト・シングル現象と同じような状況が生まれている。彼らは「コウ老族」(コウは、口ヘンに肯を書いて、かじるという意味）と呼ばれる。成人しても親と同居し、働かずに、年老いた親の資産を食いつぶすものとして使われるそうだ。失業率は、若者の生き方、経済、社会の不安など、その時々の社会の様相を表す指標として説明ができる。　　（山辺　眞一）

よかネット 車だけでなく船・鉄道で巡る旅は楽しい

今回の研修旅行では、車だけでなく、船・鉄道で鹿児島を巡った。普段は車だけで移動することがほとんどではあるが、船と鉄道を組み合わせるのは、鹿児島だからこそできる魅力的な旅ではないかと思う。

今回の研修旅行は、鹿児島市から鹿屋市、南大隅町、山川町、指宿市を経て、再び鹿児島市に戻ってくるルートであった。

私は鹿児島市に土曜日の朝に入り、鶴丸城跡の御楼門見学から合流した。鹿児島中央駅から鶴丸城跡までは時間の都合上タクシーで移動したが、大体10分くらいであったろうか。時間に余裕があれば、鹿児島線と市電の組み合わせも試したいところ。御楼門見学後は、鹿児島中央駅近くのレンタカー屋さんまで移動し、車をレンタル。そこからは、レンタカーを使っての移動となる。

鹿児島市内で昼食をとった後、鹿屋市への移動であった。当初は距離的なものもあって「垂水フェリー」を予定していたが、桜島を間近に見たいとの声があり、「桜島フェリー」で移動となって、桜島フェリーの鹿児島港フェリーターミナルへ。おそらく10年ぶりくらいに乗船したが、誘導されるままに車ごと船に乗り込み、「あれ、料金はいつ払うんだっけ？」と驚いた。何と桜島フェリーの代金は、桜島側での支払いなので鹿児島市側からはそのまま乗船なのだ。

桜島フェリーは、ご存知の方も多いと思うが24時間運行であり、しかも、休日は6時～13時は時間3便、14時から18時は時間4便と高頻度運行している。約15分の船旅だが、徐々に近づいてくる桜島は圧巻である。桜島フェリーの名物であるうどんを食べる人も多くいた。桜島フェリーは、交通系ICカードも使えて非常に便利である。

フェリー下船後は、一路、鹿屋市に向けて国道220号を南下し、途中、「道の駅たるみず　はまびら」、「ユクサおおすみ海の学校」に立ち寄り、宿泊場所である「KOTOBUKI　HOTEL」へ。ホテル到着後は、よかネットOBで地ビールの醸造とお店を共同経営されている雪丸さんのお話しを聞いたり、市内繁華街を散策したりして楽しんだ。余談だが、繁華街を散策して驚いたのは、非常に賑やかであったことだ。ホテルには16時頃に到着したが、その時は、人通りも疎らで、建物も古いものが多く、活気があるとは言い難い様子であっ

桜島フェリーで桜島へ

指宿駅に停車中の IBUTAMA

た。しかし、時間が経つにつれて、どこからか若い人も集まりだし、一見古そうに見えた建物もリノベーションしていて、どのお店も賑わっている。一体、どこから集まって来るんだろうと思ったが、その背景には、自衛隊基地や大学の存在が大きいのかもしれない。鹿屋市内のまち研究は、また次の機会である。

翌朝は、雪丸さんの本拠地である南大隅町に向けて国道 269 号を通り、海岸線を進む。天気が良ければ対岸の開聞岳がきれいに見えるとのことだったが、あいにくの曇り空。それでも、海岸線を走るのは気持ちが良いもので、錦江町を通り南大隅町に入る。南大隅町では、旧校活用の話や、地域づくりの話を伺い、その後は、「道の駅根占」に立ち寄って、昼食へ。昼食後は、大隅半島の根占と薩摩半島の山川とを結ぶ「フェリーなんきゅう」に乗船するために、根占港へ移動。惜しむらくは、南大隅の滞在時間が非常に短かったこと。雄川の滝や、佐多岬に寄ることなく帰ることになった。こちらも次回への積み残しである。

鹿屋市内の夜の様子

フェリーなんきゅうは、根占港と山川港を約 50 分で結んでいる。根占港出港後は、対岸の山川港を目指して一直線に鹿児島湾を突っ走る。桜島フェリーと違って売店等があるわけではないが、ぼんやり海を眺めながら移動するにはちょうどよい。こちらは、休日、今の時期だと 1 日 5 便である。車を載せる場合は、便数と乗船できる車の台数に限りがあるので予約されることをお勧めする。

山川港到着後は、港から直ぐそばにある「道の駅山川港　活お海道（いおかいどう）※「活お（いお）は、鹿児島弁で「魚」の意味」に立ち寄り、指宿駅近くのレンタカー屋さんで返却。ここでも時間がなく、指宿温泉、砂蒸し風呂には立ち寄れなかったが、駅前の足湯に寄ってしばし休憩。その後、観光列車「指宿の玉手箱号」に乗車し、鹿児島中央駅へ。レンタカーでそのまま鹿児島中央駅まで戻るのもありだが、指宿で返却して列車で移動する。指宿駅で車運転の任が解かれたので、「鹿児島ハイボール」を片手にしばし車窓を楽しむ。こういう旅もありだなと思う。

今回の行程は、全て車だけで回ることも可能であり、それと比べると確かに費用は余計にかかる。しかし、移動手段を変えるだけで旅の楽しみは増える。普段、車に慣れてしまっているので、船から、そして鉄道に乗ることは、新しい気づきの機会ともなる。船と鉄道の組み合わせの旅が出来るところは意外と限られる。鹿児島の両半島を巡る車だけでない旅、お勧めである。

（山﨑　裕行）

「辺塚（へつか）だいだい」から地理的表示保護制度（GI）を学びました

6月第4週の金曜日の晩から当社の研修旅行として2泊3日で鹿児島に行きました。目的の一つが南大隅町で多彩な才能を発揮しているよかネットOB雪丸氏の活動について話を聞くことでしたが、旅程の中で、たびたび「辺塚だいだい」の加工品に出会うことができました。

●幻の柑橘

数年前に佐多岬を訪れた際に商店で「辺塚だいだいサイダー」を購入し、お店の方に「『辺塚だいだい』って何ですか？」と尋ねましたが、その時には納得できる情報が得られず、「大変珍しいものらしい」という印象を持ちつつライムに似た香りを味わいました。

今回の旅程では大隅半島で過ごす時間が比較的長く、道の駅等でたびたび加工品と出会う機会がありました。

「辺塚だいだい」とは、鹿児島県肝属郡肝付町内之浦と南大隅町佐多の町境周辺の辺塚集落に古くから自生・栽培され、地域の方々に親しまれてきた柑橘類です。肝付町および南大隅町内だけで栽培されていて、年間の出荷量は大変少なく、令和2年で約64t（「特産果樹生産出荷実績調査」）。同年のカボスの出荷量（全国）3,730t、スダチ3,596t、ユズ23,411tと比べると、出荷量の少なさが分かり、幻の柑橘と呼ばれるのも納得です。ちなみに沖縄でよく使われるシークヮーサーは4,495tです。

●地理的表示（GI）保護制度

「辺塚だいだい」は農林水産省の地理的表示(GI)保護制度による登録産品となっています。地理的表示（GI）保護制度とは、平成27年より施行されている「特定農林水産物等の名称の保護に関する法律」（略称：地理的表示法）に基づき運用されている制度で、概要は以下の通りです。

①地域ならではの産品について農林水産大臣が登録
②基準を満たす産品の生産者および販売者等は地理的表示およびGIマークを使用可能
③地理的表示の不正使用は行政が取締りを実施

この制度を通じて、模倣品を排除する仕組みを作って一定の基準を設け、ブランド価値を守り、産品の魅力を見える化することや、需要者からの信頼を得ること等を狙っています。

辺塚だいだいジュース

GIマーク
（資料：農林水産省）

【福岡】	【大分】
5. 八女伝統本玉露	22. くにさき七島藺表
117. はかた地どり	33. 大分かぼす
【佐賀】	【宮崎】
121. 女山大根	55. 宮崎牛
【長崎】	64. ヤマダイかんしょ
61. 対州そば	【鹿児島】
【熊本】	7. 鹿児島の壺造り黒酢
8. くまもと県産い草	46. 桜島小みかん
9. 熊本県産い草畳表	57. 辺塚だいだい
67. くまもとあか牛	58. 鹿児島黒牛
74. 菊池水田ごぼう	102. えらぶゆり
88. 田浦銀太刀	115. 種子島安納芋
94. 八代特産晩白柚	【沖縄】
95. 八代生姜	44. 琉球もろみ酢
111. くまもと塩トマト	

九州沖縄のGI登録状況
（令和5年3月31時点）（資料：農林水産省）

令和4年度末時点で126産品が登録済みで5産品が申請中。「辺塚だいだい」は平成29年12月に57番目の産品として登録されています。九州沖縄では23産品が登録済みです。

余談ですが、農産品に関する地理的表示制度の他、酒類の地理的表示制度というものもあります。関心がおありの方は、国税庁のwebサイト「酒類の地理的表示」コーナーを見てみてください。

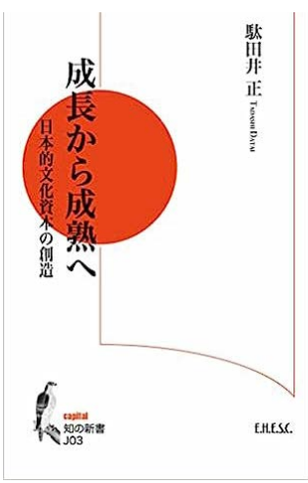
●産地で味わう

今回の旅行で「辺塚だいだい」の加工品として、

飲料の他にポン酢、ドレッシング等が販売されていることが分かり、賞味もできましたので、次はぜひ生の「辺塚だいだい」を焼酎に絞って飲んでみたいと思います。ただし、先ほど御紹介した出荷量64tのうち加工向けが58tで約91％を占めています。残り9％を手に入れるためには、やはり現地を訪れるしかないでしょう。今度は収穫時期に大隅半島を訪れたいと思います。ただ、青いものは8～10月頃、その後は黄色く熟したものと比較的長期間楽しめそうで、迷うところでもあります。

（福吉　聡子）

■ BOOKS



『成長から成熟へ
～日本的文化資本
の創造～』

駄田井　正　著

本書は、核の脅威や気候変動、資源の枯渇など人間社会の存続の危機となる要因に対応するため、世界全体でＳＤＧｓを指標化し、その達成のため、「経済の成長から社会の成熟へ」と考え方の転換が必要であると駄田井正氏が述べている。

本書の冒頭で、題名として挙げられている、「成長」と「成熟」について解説されている。「成長」とは、経済成長や成長主義のこと。経済成長の持続のため経済拡大を行う。例として、ヨーロッパ人がアメリカ大陸を開発したように、新たなフロンティアを開発することが成長主義だ。対して「成熟」とは、新しいものを求めるのではなく、既存の状況の中で個々人の満足を高めるように、物事と人間の関わりを深めていくこと。自給自足的方向へと回帰していくことも考えられると述べられている。

本書は質の高い生活を実現するには、富を幸福に変換する能力としての文化力を磨くことと提言している。近年変化している幸福（幸せややりがい）や日本の文化力を磨くための例として、具体的に結婚に対する考え方や人間と自然との共生などを挙げている。結婚の例では現在、結婚しない男女が増えている要因は、結婚に替わる別の幸せが生まれているのかもしれないと説いている。

本書を読み、私が日本文化として特に取り入れたいと感じた内容が、オランダのボランティアに対する考え方である。オランダでは国民の40％が何らかの形でボランティアに参加していて、活動によって支えられた側はボランティアをしてもらった体験から自分も人に行いたいという感情を抱き、人に喜んでもらうことが自分の喜びに繋がると感じ、参加する。日本では、ボランティアという言葉は一般化しているが、まだまだボランティアを行うことは注目され、すごいと尊敬の念のような感情を向けられる場面が多い気がする。同じ理念を元に集まったグループのボランティア活動を行う人たちは、気兼ねなく話すことができるが、組織外のボランティアに関わりのない人に対してその話題に持ち込むことは躊躇する人もいると聞く。私を含めた20～30代の周囲の人のみの話かもしれないが、ボランティア活動を行っている場面を見る、聞くなど触れる機会がより増えれば、ボランティアを行うことが身近になるのではないか。今までボランティア活動の参加に迷っていた方も一歩踏み出せるのではないかと思う。

（酒見　知里）

表　紙　解　説

当社は2011年、福岡市の新ビジョン作成業務において、福岡市に関するツイッターの投稿収集・分析業務を初めて受託して以降、自治体のSNS分析業務を継続的に受託している。

上記の福岡市の案件は、まちづくり全般に対する投稿収集・分析業務であったが、それ以降はいずれも観光スポットや宿泊施設、飲食店など、観光関係の口コミ収集・分析業務である。

収集対象となるSNSについては、当初のツイッターから、ここ数年は、観光振興との親和性の高いインスタグラムと、世界最大の観光口コミサイトであるトリップアドバイザーを対象とすることが多い。

当社のグーグルマップの口コミ収集ツール・検索画面

2020 年以降のコロナ禍で観光産業が大きなダメージを受け、当社も自治体からの観光 SNS 分析業務が減少したが、その代わりに金融機関から、「傷んだ観光産業の復興に向けて、顧客企業の SNS 投稿を分析し、口コミから満足やクレームを抽出したい。」というニーズが寄せられた。

そこで、パートナー企業とともに、金融機関の顧客である個店を対象とした観光の口コミ分析ツールを開発した。仕組みは、まず特定の SNS をターゲットとして、SNS に掲載・登録された店舗に対する口コミを収集する。そして、ユーザーの口コミの言語やアカウントの登録住所により国籍を推定。さらに、口コミの意味・内容により分類するというものである。

また、金融機関からの要望で、調査対象として世界最大の地図アプリである Google Map を追加した。本稿の表紙には、そのツールのプロトタイプを利用した。

まず、福岡市の観光情報サイト「よかなび」に掲載された屋台 105 軒のリストを作り、当社がパートナー企業と開発したツールにより、グーグルマップ上で 2022 年 10 月～ 2023 年 6 月 30 日までの口コミを 2,112 件収集。ちなみに、新設されたばかりでまだ口コミが掲載されていない、あるいはそもそもグーグルマップに登録されていない屋台が 35 軒あった。登録されていない屋台は観光客の検索対象にならないため、機会を失っている可能性がある。

マップに掲載された 70 軒の屋台には、外国語でのコメントが合計 317 件付与されていた。このデータベースをもとに、屋台別の投稿数や評価平均点を集計したり、投稿の意味により分類したものが表紙のデータである。

評価点が 5 点満点の外国語の投稿は 202 件あり、高評価の要因を見てみると、ラーメン、おでんなどの「食事が良かった」という投稿が 166 件（82.2%）、「スタッフのもてなし・対応が良かった」が 111 件（55.0%）で、この 2 項目が他を大きく離しており、屋台ならではの空間で、料理やスタッフとのコミュニケーションを楽しんでいる様子が伺える。

また、外国語での投稿が 8 件で、評価が 5 点満点の屋台の投稿内容を見ると、「英語のメニューが準備されていた」「スタッフが英語を話すことができた」「外国人の好みにあったバー形式」などが高評価の要因であった。

金融機関の顧客リストや、観光協会の加盟企業、商店街組合の店舗など、何らかのリストがあれば、GoogleMap 上でそれらの店舗等に対する口コミを即時に収集し、登録店舗名、投稿したアカウント名、記述言語、翻訳文章を吐き出すシステム作成までは何とかたどり着いた。

各地の観光振興に活用できるよう、今後も少しずつ SNS 分析の精度や速度の向上に取り組んでいきたい。（原　啓介）

編集後記

初めてよかネットの編集を行いました。文章を編集・校正し、読物として皆様に届けるための作業を体験し、出版社の努力を知ることができました。読みやすい見せ方や、写真の画質の確認など、読み手への細かな気遣いが必要な仕事でした。これからは、編集者の視点でも本を見ようと思います。（酒）

よかネット　No. 151　2023.7
（編集・発行）
㈱よかネット
〒 810-0802 福岡市博多区中洲中島町３番８号
福岡パールビル８階
TEL 092-283-2121　FAX 092-283-2128
http://www.yokanet.com
mail:info@yokanet.com
（ネットワーク会社）
㈱地域計画建築研究所
本社　京都事務所　TEL 075-221-5132
大阪事務所　TEL 06-6205-3600
東京事務所　TEL 03-5244-5132
名古屋事務所　TEL 052-462-1030